

㊦ 身近な自然を楽しむ : 春は名のみか? いや、すでに足元に

Enjoy the surrounding nature: Is spring only in name? No, it's already at your feet.

“春は名のみ”で始まる「早春賦」(早春の歌)は、立春(節分 2/4 の翌日)を過ぎても春の気配はまだ感じられず、春を告げる花も咲く様子がない事を歌っている。それから1ヶ月過ぎた今、「春が来た」と歌いたくなるほど足元には鮮やかな草木の花が目映るようになった。しかし、外はまだ肌寒く、木々は裸のまま。そんな中、芦花公園内で一足早く春を告げる花たちをカメラで追った。

雛まつり(3/3)の数日前からひな人形がトンボ池脇の自然観察資料館に飾られていた。また、花の丘では、当日霜に負けず黄色に咲いた菜の花が畑一面に広がり、来園の人々を魅了していた。そして3日の日曜日、花の丘グループによって餅つきなど楽しい菜の花まつりが催された。

“春が来た”と名実共に告げる草木の花がある。その一つが野生蘭のシュンラン(春蘭)。春になって先ず咲くを意味するマンサク(万作)。枯れ葉が残った木の枝に糸状の黄花を咲かせるシナ種のマンサク。色も形も異なるロドレイアもマンサク科の仲間だ(初めて知る)。

ツバキ(椿:木ヘンに春)。年末から新年に咲くサザンカ(山茶花)の後に咲き始める椿は冬の代表的な花で、種類も多い。大島椿で有名なヤブツバキ(藪椿)、シロツバキ(白椿)、薄ピンク色のワビスケツバキ(侘助椿)が芦花公園に咲いている。花びらが次々に散るサザンカ(山茶花)と違って、椿は花が一体で落花するのが特徴。地面がたくさんの椿の花で埋まった景色はとても印象的だ。

冬の半ばから咲き始めている梅には多くの種類がある。枝を覆うように咲く紅梅、枝垂れ梅がその例。数種の桜も2月半ばから咲き始めていた。何と言っても早咲き桜の典例は、カワズサクラ(河津桜)だろう。本拠地の伊豆河津には満開の桜が川沿いに咲き乱れ、大勢の観光客で賑わいを見せていたが、芦花公園や近くの將軍池周辺でも見事に咲いていた。先号ではメジロが花の蜜を求めて飛来する姿をお見せしたが、ヒヨドリがやって来ていた。3月に入り早くもカンヒザクラ(寒緋桜)とオカメザクラ(お亀桜)も咲いていた。ソメイヨシノ桜は春分の日頃に咲き始めると予報されているが、気温変化の激しい日が続いているので果たして当たるか?

春を告げる草木をさらに2種:一つは、貴重な花:青と白のキクザキイチゲ(菊咲一華)。もう一つは、香木の沈香(ジンコウ)のような良い匂いがする赤と白種のジンチョウゲ(沈丁花)。

※ 当アルバムのバックナンバーは、

<http://www.sengawacx.com/FlowersAroundRokaPark.html>

